令和７年度　東海教育オーディオロジー研究協議会　第 22 回講演会

後援　東海地区聾学校長会

１　日　時　令和８年３月１日（日）１２：５０～１６：００

２　会　場　名古屋市総合社会福祉会館　　TEL 052-911-3191
北区清水四丁目 17-1（北区総合庁舎内 7F）
※名古屋市総合社会福祉会館のホームページで地図をご確認ください。

３　講　師　東京学芸大学　准教授　大鹿　綾先生
東海学院大学　講師　　小川　征利先生

４　日　程　12:30～12:50　受付
12:50～13:00　開会式・日程説明
13:00～15:30　講演『発達障害を併せ有する聴覚障害児の支援や指導
～これからの聴覚障害児教育～』大鹿先生
15:30～15:50　質疑応答
15:50～16:00　閉会式

＊午前中に「小川先生による講演『教科学習とことばの指導』」を予定しておりましたが、講師の都合により、参加者全員にオンデマンド配信を行うことにいたしました。

５　参加費

当日会場にて お支払いください。	会 員	会員外（一般）	会員外（学生）
	０円	１,０００円	５００円
オンデマンド	１,５００円（振込み） メールにて振込先をご連絡しますので、お手続きをお願いします。		

※オンデマンドの配信期間：３月８日（日）～３月２９日（日）

６　定　員　６０名

７　申　込　申込み期間　令和８年１月７日（水）～令和８年２月６日（金）
・参加希望の方は、Googleフォームで、必要事項を記入・選択して、申し込んでください。
・情報保障（手話通訳）が必要な方は、申込みの際に選択してください。情報保障は、手話通訳のみです。

申込先　Google フォーム：https://forms.gle/HtkLf3FE5c9tqZKNA（会場）
https://forms.gle/1EXQbiEDb1PCv6jU8（オンデマンド）

・メールアドレスの入力ミスにご注意ください。
・申し込み後すぐに、申込み完了メールが届きます。届かない場合は、メールアドレスの入力ミス、もしくは、迷惑メール等の設定をしている場合があります。
尚、申込期限間際は、申込みが集中します。その場合、一日の返信可能数に限りがあるため、申込み完了メールが届かない可能性があります。分散しての申込みに御協力ください。
・メールアドレスの入力ミスの場合は、再度Googleフォームでお申込みください。

裏面に続く

８　その他　・公共交通機関でお越しください。
・昼食は、会場でおとりいただけます。
＊ご不明な点がございましたら、下記にお問い合わせください。
東海教育オーディオロジー研究協議会事務局
メールアドレス：toukai.ed.aud@gmail.com
ＨＰアドレス：http://www.normanet.ne.jp/~tokai/

９　紹　介

（1）言語聴覚士・東海学院大学講師　　小川　征利先生

○　講演要旨『教科学習とことばの指導』

皆さんは「教科学習とことばの指導」についてどのように考えていますか。

ChatGPT に質問したら次のような回答がありました。『言語力が基盤となり、教科学習の理解を支えます。』『 一方で、教科学習の中で新しい語彙・表現を学ぶことで言語も発達します。』『 「教科学習」と「言語指導」は相互に支え合う両輪です。』

でも、教科学習の前提＝レディネスは乳幼児期から育ちます。そこで、乳幼児期から学齢期・思春期へと続く流れの中で、言語発達上のトピックをいくつか取り上げテーマに迫ってみたいと思います。

（2）東京学芸大学　総合教育科学系　特別支援科学講座　准教授　大鹿　綾先生

２０１１年から広島大学の教育学研究科特任助教を経て、２０１３年から３年間、日本学術振興会特別研究員として研究に従事。２０１６年から２０１９年までは筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター講師、
２０２０年から東京学芸大学に移られ、現在は、総合教育科学系特別支援科学講座の准教授としてご活躍されています。

○　講演要旨『発達障害を併せ有する聴覚障害児の支援や指導～これからの聴覚障害児教育～』

「発達障害を併せ有する聴覚障害児の支援や指導～これからの聴覚障害児教育～」と題し、お話しいただきます。近年、発達障害を併せ有する聴覚障害児の割合は増加傾向にあります。また、コミュニケーション手段も手話を第一言語とする者から、人工内耳や補聴器を使って積極的な聴覚活用をしている者、外国にルーツのある者まで多様化しており、子どもの示す困り感の要因もつかみにくくなっています。発達障害を併せ有する聴覚障害児に対する支援の現状や課題について事例を交えながらお話しいただきます。

また、インクルーシブ教育システムの推進により、地域で過ごす聴覚障害児は更に増えています。これからのろう学校、聴覚障害児教育がどのような専門性を発揮すべきなのか、みなさんと一緒に考えられればと思います。